

語源由来辞典によると、「相棒」とは、「江戸時代の駕籠(かご)や番(もん)の棒に由来する。駕籠や番は二人一組で棒の端と端を担ぐことから、その相手を『相棒』とした。そこから、二人で協力して事を成す時の相手も『相棒』というようになった。」とのこと。

仕事において、皆様の周りには、実は様々な相棒が居ると思うのです。大分類では、「自社」と「得意先」、「自社」と「仕入先」、「自社」と「金融機関」といったところでしよう。中分類では、「経営者」と「従業員」、「営業部」と「経理部」、「上司」と「部下」などです。小分類では、皆様が自身を片棒と成るならば、隣に座っている同僚、毎日にぶつこするパソコンなどの仕事道具です。

上記に登場したものは、実際には相棒とは呼ばないかもしれませんが、自分の相棒だと考えれば、なかなか良いものです。私にとっての仕事上の相棒は、職員、取引先、事務所、仕事机、パソコン、照明器具、靴、水筒、はちまき、など、杖擧に暇がありません。なぜ相棒かという、なくてはならない、世話になっている、助けられる、苦楽を共にした、気合が入る、思いとどまらせてくれた、といった様々な思いがあるからです。

自分一人でやれなくもないことはありますが、自分一人で行うことには限界があります。見方によっては、自分一人だけで仕事を完結することはできないはずで、内外を問わず、自分の仕事を補佐してくめる人がいます。自分の仕事を有効かつ効率的に進めるのに役立つ仕事道具があります。

令和元年も残すところ4ヶ月とちょっとです。皆様の周りに居る相棒に、思いを寄せせてみてはいかがでしょうか。

江幡 淳